

GA327

国際社会演習 ー「国際関係」を問い直すー

今泉 裕美子

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の諸事象・諸問題を国際関係学の視点と方法から分析する。具体的に述べれば、関心ある事象・問題を①それらが生起し展開してきた歴史のなかで、また②同時代に起きているさまざまな事象・問題との関係性のなかで、さらに③本学部の学際的な学習環境をいかして、分析する。最終的には各自が現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

【到達目標】

- (1) 国際関係研究の歴史を知り、広領域学としての国際関係学の方法論を習得する。
- (2) 現代世界に至る「国際関係」の成立と展開、構造と動態、主要な概念、理論、思想などを学ぶ。
- (3) 研究テーマの設定、資料収集、分析、発表、議論の方法を習得する。他のゼミ生、他ゼミのゼミ生（学部学会などにて）の研究にコメントができる。
- (4) 各自の研究テーマについて論文を書き、公表する。
- (5) 研究対象、これに関係する人びとと自分との関係性を理解することで、現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

【授業の進め方と方法】

2017年度春学期の共同研究テーマは「民族から「国際関係」を問い直す」、秋学期のテーマは春学期を踏まえて決定する。

- (1) 共同研究の文献購読では、担当者を割り当て報告、議論する。フィールドワークを実施する（夏休み中を予定）。
- (2) 個人研究には中間報告の機会を複数回もち、ゼミ生同士の議論、教員からの指導を得て4年次末に研究論文を完成、ゼミ論文集を刊行する。
- (3) 学部学会で報告する（共同研究は3年、個人研究は4年）。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	共同研究テーマの説明、授業内容とゼミ運営など確認
2	文献1に基づく議論1	報告と議論。
3	文献1に基づく議論2	報告と議論。
4	4年生、個人研究について中間報告	先行研究の整理、論文構成の確定版報告。
5	文献1に基づく議論3	報告と議論。
6	文献1に関する映像資料観賞と議論4 + 春学期前半の総括	報告と議論。春学期前半の総括、文献2と担当者決定。
7	学術論文の書き方、研究テーマ設定、研究計画の立て方を学ぶ（4年生担当）	3年生が学術論文の書き方を学ぶと同時に、4年生が自身の研究過程を振り返る機会にもする。
8	文献2に基づく議論1	報告と議論。
9	文献2に基づく議論2	報告と議論。
10	文献2に関する議論3	報告と議論。
11	文献2に関する映像資料観賞と議論4	報告と議論。
12	春学期後半の総括	文献2の議論の総括
13	個人研究中間報告、夏休みの研究計画提示	3年生は個人研究の最初の発表、4年生は中間報告。
14	春学期の総括と秋学期の共同研究テーマ、ゼミフィールドワーク内容の決定	春学期の内容を総括、秋学期の共同研究テーマ決定。フィールドワークの課題、計画決定。
15	ゼミフィールドワークの準備	フィールドワークの方法、調査内容に関連する文献、資料から学ぶ。

秋学期

回	テーマ	内容
16	秋学期のイントロダクション、フィールドワークの成果報告	秋学期の共同研究と進め方を確認。フィールドワークの成果報告。
17	個人研究について中間報告、研究計画提出	夏休みの研究成果を報告、進捗状況に基づく研究計画の修正。
18	文献3に基づく議論1	報告と議論。
19	文献3に基づく議論2	報告と議論。
20	文献3に基づく議論3	報告と議論。
21	個人研究について中間報告	3年生は先行研究整理と資料調査の報告、4年生は論文の半分以上を書き上げて報告。
22	文献3に関する映像資料観賞 + 秋学期前半の総括	報告と議論。秋学期前半を総括、文献4と担当者を決定。
23	文献4に基づく議論1	報告と議論。
24	文献4に基づく議論2	報告と議論。
25	学部学会準備報告	3年生による共同研究のプレ報告、4年生の個人研究報告準備。
26	学部学会報告の総括	準備や報告内容、学会で得たコメントに基づく今後の改善点を共有、検討。
27	文献4に基づく議論3	報告と議論。
28	文献4に関する映像資料観賞と議論4	報告と議論。
29	秋学期の総括 + 1年の総括、次年度の研究課題検討	秋学期、1年間の総括。次年度春学期の共同研究テーマ検討。
30	4年生の個人研究論文提出・口頭試問、3年生の論文構想発表	4年生は提出論文に基づく最終報告・口頭試問。3年生は個人研究テーマの確定、研究計画提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 毎回の報告では担当者がテキスト以外の関連文献も読み、レジュメを作成。報告者以外も疑問点は調べ、意見を準備。
- (2) 個人研究は共同中間報告会での報告、自主的に教員から指導をうけることを義務付ける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークを実施する。第一・第二外国語を活用する。
- (3) 共同研究ではフィールドワークの企画・実施（2016年度は沖縄）。関連するシンポジウムや講演会、映画、博物館などに積極的に足を運ぶ。
- (4) 新聞は1紙以上、社説や投書欄を含めて毎日必ず目を通す。まとめサイトの利用は厳禁。

【テキスト（教科書）】

- 国際関係学に関する基本文献は以下の通り。
 - 百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 - 百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。
 - 学術論文の書き方
 - 斉藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005年。
- その他授業時に提示する。

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの共同研究に関する報告と議論（50%）、個人研究に関する報告、レポート及び研究論文執筆（50%）。前者は準備、司会、発言、授業後の補足調査、学部学会での発表。後者は、調査、分析、中間口頭報告・レポート、自主的に論文指導を受ける、学部学会での発表、最終提出の研究論文と口頭試問の内容。提出物の締め切りを守れない場合は減点。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ共同研究、個人研究、学部学会報告の準備過程を整理した。

【学生が準備すべき機器他】

授業時に指示する。

【その他の重要事項】

- (1) 3年、4年を継続して受講する。4年への継続は、3年次末の論文構想発表会でテーマ決定、課された準備を行い得た学生にのみ認める。
- (2) 「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講し、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、「学際的」に追究する方法を学ぶ。地域研究から国際関係学の方法を学ぶために今泉担当「アジア・太平洋国際関係史（ILAC）」、「オセアニアの政治と社会Ⅰ・Ⅱ」（法学部の他学部公開科目）受講を薦める。
- (3) 本ゼミでは個人研究とゼミ共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、責任をもってゼミ運営に参加する学生を歓迎する。

管理 ID：
1705249
授業コード：
C1126